

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4075000168		
法人名	有限会社 日新商会		
事業所名	グループホーム みずまき		
所在地 (電話番号)	〒807-0046 福岡県遠賀郡水巻町吉田西三丁目15-11 (電話)093-202-8142		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年12月10日	評価確定日	平成21年12月25日

### 【情報提供票より】(平成21年11月30日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤(専任8人 兼務1人)	非常勤 1人 常勤換算 8

#### (2) 建物概要

建物形態	単独型	築7年
建物構造	木造モルタル 造り	
	2階建ての	1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

#### (4) 利用者の概要(平成年月日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低 79歳	最高 95歳		

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	水巻共立病院 ・ ひだか歯科医院
---------	------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「みずまき」は療養型病床併設の医療機関が母体で、民家二棟を改築し、24時間365日利用者の健康管理に配慮したグループホームである。家庭的な普通の家の玄関から廊下伝いにリビングルームに行くと、昼食の準備を利用者と職員が一緒になって楽しみ、管理栄養士が作ったメニューの食事を、同じテーブルで食べることが、利用者の元気の源になっている。管理者と計画作成担当者が取りまとめた作った理念は「ありのままの利用者に寄り添い、安心と安らぎのある生活を、家族や地域と共にささえていく」と謳って、職員が迷ったり、悩んだりした時の指針としている。また、町内会に加入し、清掃活動に参加したり、ボランティアの訪問等、地域との交流も始まっている。管理者の思いが、職員のチームワークをより強固なものにし、職員の、家族に対する接し方も穏やかで、利用者の心身の状態と暮らしびりを詳細に報告し、安心してホームとの信頼関係を築いている。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の3件の改善点の中で、「職員を育てる取り組み」「同業者との交流を通じた向上」は職員の頑張りで改善出来ている。今回は「権利擁護に関する制度の理解と活用」「人権教育・啓発活動」の2件が改善に向けて努力中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、計画作成担当者は外部評価の意義を理解し、活用に向けて努力している。自己評価は職員が話し合い、管理者がまとめて作成している。職員は評価結果をミーティングや夜勤の時に閲覧し、改善策を提出するようにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は2ヶ月毎に開催し、家族、自治会長、民生委員、市町村職員、ホーム管理者、職員が参加し、意見、要望、情報交換の場として、活発な会議になっている。出された意見、要望は出来ること、出来ないことを会議で検討し、ホーム運営に反映していくように努力している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置し、苦情受付窓口を3ヶ所掲示し、家族が安心して、苦情等を出せるようにしている。職員は、家族来訪時に、利用者の健康状態やホームの生活を業務日誌や写真などで説明し、家族の不安や心配等を聴き出し、ホーム運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームとして町内会に加入し、清掃活動参加や子供神輿の訪問、幼稚園児や地域の年長者と交流を図っている。また、近くの母体病院のデイケアで行われる行事に参加し、地域の参加者と馴染みの関係を築いている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、安心してホームで暮らしていけるように、ありのままの生活を、家族や地域と共に支えて、利用者と職員が寄り添って暮らしていくというホーム独自の理念を謳っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に管理者が職員に理念について話し、理解してもらい、ホーム内に掲示し、職員の名札の裏にも記載し、実践に向けた取り組みが出来るように努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板の閲覧や清掃活動、地域の子供神輿をホーム正面で見せてもらったり、病院や地域にチラシを配り、ホーム行事への参加を募ったりして、地域との交流が始まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は自己評価について、話し合い、評価の意義を理解し、意見を出し合い、管理者と計画作成担当者が取りまとめ、全員参加で作成している。評価結果を玄関に置いて、回覧したり、夜勤時等に見て、目標を立てて、日々の介護業務に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月毎に開催し、地域、家族、行政から参加してもらい、さまざまな意見や要望、質問、情報提供等、活発な意見交換の場として活動している。また、出された意見を会議で検討し、次回の運営推進会議において、結果や状況報告をしたりして、会議のマンネリ化を防いでいる。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加や「認知症の実態の把握」について市から依頼を受けたり、市に向き相談等行ない、市町村と協働できるように工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議時に、市職員より家族やスタッフに説明をしてもらったり、内部研修をしている。家族には契約の時に説明し、必要時に利用できるように支援している。		職員全員が日頃から、制度を理解し、利用者や家族にいつでも説明出来る様に、学習の機会を設け、制度が必要な利用者や家族には、説明し、活用できるような取り組みを、実施していくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月手紙やホーム便りで利用者の心身の状況を知らせている。家族の訪問時にも利用者の近況を話すようにしている。預かり金の収支報告についても、家族の確認後、サインをもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情相談窓口を明示し、気軽に苦情が言えるようにしている。職員は家族の訪問時や運営推進会議の際に家族と意見交換し、安心して任せられるような配慮をしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、異動を極力しない方法を考えて日々工夫を重ねている。やむを得ず離職する場合、離職者が在職中に他の職員と、利用者が、馴染みの関係を充分に作れるように配慮を行っている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用に関しては、介護に対する思いや意欲を重視し、年齢、性別は制限していない。職員がそれぞれの特技や趣味を活かしながら、生き生きと仕事が出来るように支援している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	運営理念の実践に取り組み、毎日のミーティングの中で、職員全体に伝わるようにしている。		管理者は、行政等が主催する人権教育、啓発活動に参加し、内部研修会を開き、職員と人権尊重に対する取り組みをし、啓発活動に繋げていくことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や地域で行われている介護研修会の参加を促している。参加者は研修資料を持ち帰り、ミーティング時に研修内容を報告し、職員全体で、共有できるように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時々同業者の訪問を行ったり、また、研修会に出席したりすることで情報交換を行っている。今後は、グループホーム協議会等に参加し、地域における介護サービスの質の向上に繋げることを考えている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は、入居前に、入居希望者の自宅や入院先に訪問し、少しずつ馴染みの関係が作れるようにして、利用者や家族が納得の上で入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に、裁縫や料理の味付けなどを教えてもらったり、一緒に洗濯物をたたんだり、昔の話を聞かせてもらったりと、楽しみながら利用者から学ばせてもらうような関係を築いている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を会話の中で引き出したり、利用者の日々の表情や行動などの観察を行い、出来るだけ、利用者の希望に沿えるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者の日々の生活や会話の中で課題を見つけ、また、家族の訪問時に要望を聴いて関係者で検討し、介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直し、毎月モニタリングを行い、利用者に変化があればその都度見直しをして、家族に報告し、新たな介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者と職員は利用者と家族のその時々状況や要望に向き合い、法人母体の病院の受診やリハビリ通院に職員が支援したりして対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体の病院を、かかりつけ医としている利用者が多く、受診や治療についての助言・指導を受けている。治療や感染症についての情報なども密に連絡を受け、健康管理を行っている。また、利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医への支援も行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は利用者や家族に、入居時に病状の異変や重度化した場合についての説明を行っている。看護師を配置していないため、重度化した場合は入院となる事を伝え、家族・本人より同意を得ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から利用者と会話する場合には大きい声、強い口調を避けるよう心掛けて接している。プライバシーの確保について、職員全員で遵守している。利用者の個人情報の保護には細心の注意をはらっている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の流れはあるが、利用者や家族の意向を尊重しながら、利用者のその時の心身の状態やペースに配慮して、柔軟な対応を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、職員と共に会話を楽しみながら食事をしている。食後の下膳や茶碗拭きを、楽しみにしている利用者がいて、一人ひとりの好みや能力を活かせるように、支援している。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴時間は設定しているが、利用者の体調や希望を考慮し柔軟に対応し、ニーズに合わせて、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
や					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望により、料理の盛り付け、茶碗拭き、雑巾縫いなどを、生活歴や能力を活かした役割をお願いし、支援している。その他レクリエーションやホーム行事、神輿の見学なども利用者の楽しみとなっている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣にスーパーやコンビニエンスストアがあり、天気の良い日は、買い物や散歩を利用者と職員が、一緒に出かけ、日々の生活が、マンネリ化しないように工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を管理者、職員全員が理解し、日中は鍵をかけないように工夫している。利用者の安全面には細心の注意をはらい、利用者の外出の気配を感じたら、さりげなく目配り、心配りをし見守るようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1度定期的に避難訓練を行っている。防災管理者の選任が義務づけられており、消防訓練を実施している。職員による時間ごとの火元確認も行っている。また、地域住民の協力と参加を呼び掛けている。		
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや希望を考慮しながらも、栄養のバランスを考え偏りのない献立を、母体病院の栄養士による献立作成と指導を受け、利用者の状況に合った支援をしている。一日の水分量も不足しないよう、工夫しながら摂取に配慮している。		健康管理につながるバイタルチェックとして、日々の水分摂取量の記録を残すことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の配慮や空気の流れ替えについては、カーテンや窓の開閉をこまめに行うことにより臭いやよどみもない。台所から料理のいい匂いや季節感のある盛り付けなどで、利用者に季節感や五感を感じる配慮をしている。室温は温度計を設置し、適温に管理している。季節の花をテーブルに飾り、居心地の良い空間である。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドと寝具、エアコンが設置され、自宅で使用していた家具や写真など、馴染みの物を持ち込み、違和感のない雰囲気、利用者が過しやすい居室となっている。		